

# 恵みと真理のニュース



2020年01月の四次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

## 幸いな者、主を畏れ／その戒めを大いに喜ぶ人

知り合いから紹介され、お見合いで結婚したら婚家は偶像崇拜をする家庭だったし、姑は熱心にお寺に行って偶像崇拜をしていました。わたしの家族はクリスチャンでしたが、イエス様を救い主で信じる神様に対する恐れもなく、たまに家族について教会に行ったりしました。そんな状態で結婚したから偶像崇拜に対する拒否感がなく、姑についてお寺に行って夫と子供と家族が健康になるように拝みました。

実家に行くたびに妹が“お姉さん、地獄に行ったらどうする？”あなたが姉をおんぶでもしてと地獄に行かないように、悔い改めて、神様に戻るように私に願ったり、進めました。その時ことに妹に“あなたが地獄に行った事があるのか？この世で誠実に生きて道徳的で正しく生きるなら、それが正しく生きるのではないのか。なぜ、地獄の話をするのか？とむしろ妹を叱りました。二人の息子が何の問題もなく、そだつていくし、夫も大型企業に通っているから、私が人生をよく生きているように見えました。

そうするうちに2005年に夫がよく通っていた職場を辞めて、事業をはじめました。退職金でアパートを担保としてお金を借りて、大きい期待で事業を始めました。しかし、まもなく、ある人に詐欺にあつて、また、様々な苦難を受けました。苦しさが重なるとうまくなく事業を辞めるしかなかったです。住んでいた家を瞬間失うほど経済的な打撃が多かったのでわたしに心の病気が出来ました。

夫と言い争いも多くなり、日々をかううじて耐え忍んで、涙で過ごしながら、極端な考えに至りました。そのように生きる希望を失って、どうするべきか、知らなくて彷徨う、ある日、知り合いの姉の家に遊びに行つて、恵と真理教会の区域長に出会いました。区域長は私を伝道して、その月曜日、教会に行こうとタクシーに乗って私を迎えに来てくださいました。私が、来るまでタクシーの中で待っていた区域長について初めて月曜祈りに参加して、金曜日の祈りに続いて主日礼拝に参加して決意しました。月曜日と金曜日の平日の夜、遅い時間に多くの方々で教会に出て説教を聴き、また、

切に祈る姿と明るい顔をして、秩序にしたがって家に帰る姿がとても感動的でした。主日礼拝で当会長の牧師の説教を聴いて恵を受け、イエス様を救い主として受け入れて神様を信じる生活を決心しました。

牧師の説教がまるで私に向つて話をするようでした。御言葉を聞き、続いて私が涙を流しながら歌った“わたしの行く道、全部行くように”賛美かはその後、わたしが好きな曲になりました。礼拝を終えて、目を上げ牧師の顔をよく見たら、とても素敵で、尊敬になりました。その後、画面で牧師を見るだけで、胸が熱くなり力が出て、お話の一言一言がわたしの胸を指しました。極端な考えまでした私に新しい人生に新しい力と勇気が出ました。説教の中で教えるソロモンの知恵とタレント比喻を考えながら夫のため祈り始めました。

私は恵と真理教会に行く前には腰手術を受けて腹帯をして通いました。手術を受けましたが、相変わらず腰が痛くて、腰を正しく立つこともできなかつたです。教室による時、教区長と大教区長がわたしの健康のため祈ってくださいました。私も、当会長の牧師が癒しと祝福祈りをすることに、腰に手を置いて信仰で、アーメン、アーメンと答えました。決心した後には強い信仰を持つため、主日礼拝はもちろん、平日の祈りと礼拝にも熱心に参加しました。私が、礼拝を捧げるため、首区域長があらかじめ連絡してくださり、いろいろ助けてくださいました。そのように3ヶ月間、一度も礼拝に休まなかつたのですが、ある瞬間治療してくださり、腰の痛みがなくなりました。すると、世が明るくて美しく見えるようになりました。誰よりも妹が喜んで神様に感謝しました。その当時、わたしは、銀行とお金を借りた会社の借金の督促を避ける場所があるなら、山の中で破れそうな家でも入って住みたいくらいでした。教会に来ると心が平安になったので

どんな仕事でもやるから、何事もやるから食べさせて寝かせてもらおうかという気持ちのときもありました。一人で悩んで切に神様の助けを求めながら祈りました。“神様！わたしの家がわたしの家ではありません。銀行の者と違いがありません。これからどこに行つて生きるべきですか。神様助けてください。”神様の助けを願い祈りました。

神様は、住んでいたアパートをよく整理して、家族が再び家に暮らす家に引越すように助けてくださいました。建坪10坪の一戸建て住宅から、また、広いアパートで住んでいた二人の息子が驚くくらい、とても小さい家出したが、わた

しの心は楽でした。全ての家族が、一つの心になり、各自、経済的に助けになることを探して最善を尽くして働きました。軍務中の末休暇を出た息子が一日も休まなく昼夜アルバイトをして家計を助けてくれるほど心が一つになりました。

私は二人の息子がいま経験している苦難が将来の生活に有益な経験になり、尊い財産になるのを願い、神様に祈りました。二人の息子は学資金を借りて、復学して週末に休まずアルバイトをしました。そうしながら、熱心に勉強して奨学金も受けて、無事に学業を終えました。そして、就職が難しいとき、長男は大企業に入り、小さい息子は公企業に就職しました。全てが神様の恵みです。神様がわたしの祈りを聞いてください、わたしの心に切ない期待と願いを成し遂げてくださいました。それよりも二人の息子と旦那が我が教会に出て決意して信仰生活をするようになったのはわたしの一番喜びであり、幸せであり、神様に対する感謝です。偶像を仕えて姑も偶像を捨て私たちの教会に出てイエス様を主で受け入れました。まだ、借金が残っていて、家を借りる能力がなくて結婚する時期になった二人に恥ずかしかったです。それで、神様の助けを求めながら、祈りました。本当に良い神様です。神様は長男に経済的な余裕がある家庭に出会わせてくださって、住む家は心配しなくなるようにしてくださいました。二番目の息子も全ての面で足りなさがない教会で伴奏者で奉仕しているきれいで真実な姉妹に出会い幸せに生きるように摂理してくださいました。

“幸いな者、主を畏れ／その戒めを大いに喜ぶ人。”〈詩篇 112:1〉“地ちを造つられた主しゅ、それを形かたち造つて堅かたく立たせられた主しゅ、その名を主しゅと名なのっておられる者ものがこう仰おせられる、わたしに呼び求めとめよ、そうすれば、わたしはあなたに答えたえる。そしてあなたの知らない大おおきな隠かくされている事ことを、あなたに示しめす。”(エレミヤ書33:2,3) 神様を恐れ、委ね愛する者の祈りを聞いてくださり、全てが益となるようにしてください、多様な救いの恵を経験してくださる神様に感謝を捧げます。我が教会と聖徒達をもっと愛し、聖霊を委ね、福音を述べ伝えながら、真面目で忠誠する区域長の職務をします。“天の栄光、天の栄光、あたしの心に充たされ、ハレルヤを歌って主を永遠に賛美をささげ。” 賛美で神様に栄光を捧げます。



【信仰コラム】

## 生まれ変わらせる聖霊様

“イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない。」”(ヨハネによる福音書3:3)

イエスキリストを信じて迎接し神様の子になったことをコリント人への第二の手紙 5章 17節に“新しく造られた者”あるいは“新しくなった”と表現しました。イエス様は“生まれ変わった人”あるいは“聖霊として生まれた人”と言われました。従つて神様の子、新たな被造物、生まれ変わった人という名称はイエス様を信じる人が体験する身分と存在の変化を表わしています。このような変化に聖霊様が関与なさいます。

第一に、生まれ変わることはイエスキリストを信じる者が経験する本質上の変化です。

“人がどうしたら神様の国に入ることができますか”というニコデモの質問に対するイエス様の答えを要約すると“神様の国に入るためには生まれ変わるべきで、生まれ変わるためにはとこしえの命をくださるイエスキリストを信じなければならぬ。”ということですが、生まれ変わるということは神様から新たな命を受けて再び生まれることです。この新たな生命は肉親の生命とは質的に完全に異なることです。神様から与えられた霊的な生命でありとこしえの命です。イエス様が生まれ変わることは水と霊とから生まれることだと言われました。ここで水は清くすることと洗礼を意味します。罪の洗いは人の行為ではできず、ひたすらイエスキ

リストの贖いの恵みと血潮の恵みだけでできるのです。イエスキリストを信じる者に聖霊様が生まれ変わるようにして下さいます。

第二、生まれ変わりはただ一回で終わる一回性の霊的な変化です。

ペテロの第一の手紙 1章 3節の“新たに生れさせて”の原語“アナゲネサス”は否定過去分詞として生まれ変わりが繰り返されず一回性で終わることだという事実を話してくれます。人は他人の霊的な状態を性格に診断することが難しいが神様は全てご存じでおられます。従つて、二心を抱いている人、神様と偶像を兼ねて仕える人の礼拝を正当な礼拝として認定なさいません。イスラエルの人々は40年間を幕屋で神様が指示なさった祭司法通りに捧げ物を捧げてきたのが事実です。しかし、彼らは二心を抱いて金の子牛の偶像の前で敬拝しました。口ではエホバ神様を呼びながらも心では偶像を憧れて仕えました。カナン地に入つてもエホバの御名を呼びながらカナン地の人々の宗教行事に参加して更に、彼らが仕える偶像を仕えました。偶像崇拜の居所である高き所で祭司を捧げました。結局彼らは神様の懲罰を受けて国が減びてアッシリヤとバビロン帝国に捕虜として連れていきました。

生まれ変わった人は過去にイスラエルの民が行つたようにしません。そのようにできません。一時熱心に礼拝に参加したがある日、教会を背いてこの世に行つてしまった者がいます。一時熱心に教会に通つたが異端集団に行つてしまった者がいます。一時熱心に奉仕し

て伝道したが今は偶像を仕える者がいます。生まれ変わった人はそのようにしません。生まれ変わった人は教会を残留してキリスト人を無惨に処刑する者を受け入れる者達の肩を持ちません。

生まれ変わった人が墮落して再び悔い改めて再び生まれ変わることを起きることができません。しかし、生まれ変わった人は全く墮落しないとは言えません。新約聖書ヘブライ書に生まれ変わった人が墮落したらいかになるかを警告する恐ろしい御言葉があります。(ヘブライ書 6:4~6、10:26~27) 生まれ変わった人が墮落してから再び生まれ変わるがあり得ないことを話してくれる御言葉でもあります。

生まれ変わった人はいかなる誘惑と逼迫と苦難と試しが迫つてもイエスキリストを裏切りません。聖霊様が生まれ変わらせるだけでなく生まれ変わった者を最後まで捕らえてくださり、耐えて勝つことができる力をくださるからです。このような生まれ変わりは聖霊様がなさることであり、聖霊によることです。神秘に属したことであるから肉親では関知できないが、生まれ変わった人の生活を通じてその証拠が現れます。皆さんは真実にイエスキリストを信じて聖霊として生まれ変わった聖徒として天国の望みが満たされて生きるように祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

## 福ある人



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

“福をたくさん受け取ってください。”という言葉は人々が一般的に多く使われる祝福の言葉です。聖徒達がこの話をするときは、人によって他の意味があります。クリスチャンに“福を受けた人らしく願うことであり、不信者には“福ある人になるようにと願う事です。”その理由を調べてみます。

聖書にはイエスキリストを信じる人を“福ある人”と断定します。申命記33章29節には“イスラエルよ、あなたはいかに幸いなことか。／あなたのように主に救われた民があらうか。／主はあなたを助ける盾／あなたの威光の剣。／敵はあなたに屈服し／あなたは彼らの高き所を踏みつける。”と誓いました。ここでイスラエルは神様から選ばれた者達を意味して究極的にはクリスチャンを意味します。ローマ書4章には“同じようにダビデも、行いがなくても神に義と認められた人の幸いを、こう言っています。「不法を赦され、罪を覆われた人は／幸いである。主に罪をとがめられない人は／幸いである。」”(ローマ書4：6～8)と言われました。イエスキリストを信じて義人とされた人を意味します。聖書の通りに“福ある人”と“福ない人”を区分することが“救い”です。救いには罪が赦され義人になり、再び生まれ変わった人になり永遠な命を得て神様の子供になります。また、天国の市民になった事実が含まれています。

詩編1編には福ある人らしい人生の姿勢が何であり、福ある人が経験するように約束されたことが整理されています。このことに関して調べてみます

**1 節に“幸いな者／悪しき者の謀に歩まず／罪人の道に立たず／嘲る者の座に着かない人。”と記録されています。福ある人が拒否して排撃することが三つで名士しました。**

初めは、福ある人は、悪しき者の謀に歩んではいけません。

使徒ヨハネはヨハネ1章19節に“私たちは神から出た者であり、全世界は悪い者の支配下にあることを知っています。”悪魔は悪い者のおやぶんです。サタンの本質は嘘を行うことです。イエス様はサタンの対する本質をお話しました。“あなたがたは、悪魔である父から出た者であって、その父の欲望を満たしたいと思っている。悪魔は初めから人殺しであって、真理に立ってはいない。彼の内には真理がないからだ。悪魔が偽りを言うときは、その本性から言っている。自分が偽り者であり、偽りの父だからである。”(ヨハネによる福音書 8：44)自分の欲望を満たせるように人々に嘘うついて、被害を与えることは嘘の父のサタンの悪賢いことを従うことです。真理の御言葉を歪曲して伝える者とキリスト教を標榜する異端の団体を庇護をしてその活動の領域を広げる者は、嘘の父であるサタンを従う行為です。

不法や非正常的な方法で得た情報によって、推測で他の人を非難して責める行為、自分を隠して投書する行為は嘘の父である悪い悪魔の悪賢いことを従う行為です。福を持っているは悪い行為を従ってはいけません。

二番目は、福ある人は罪人の道で立ってはいけません。

罪という単語は“目当てをあてられない。”道を間違えて違う道に行く。という意味もあります。

人間の人生の目標は、神様が決めたことで神様を仕えることです。神様は天地創造をなさいました。世界には多くの宗教があって、人々は多様な神を仕えています。しかし、真実を話すと“自らおられる創造主、神様“以外には他の神は人間が作って観念の中での神で実際しない神です。”その後には惑わされる悪魔があります。天地を作って罪を救われるイエスキリストの神様を仕えなければ、いくら善良な人で宗教的な人でも罪人の道に立っている人です。イエスキリストの神様以外にも、救いの道があると話す人も罪の道で立っている人です。福ある人はどんな場合でも罪人の道で立ってはいけません。

第三番は、福ある人は高慢になってはいけません。

聖書には“高慢な者”という用語は神様の権威と栄光を無視する行動する者を意味します。創世記11書を読むと高慢な者としてミムロツと彼を従う者たちに関する記事があります。ノアの洪水以後の年月が流れて人々が盛んになるようになりました。神様はノアと息子達に言われました。“父から遠く離れて盛んになりなさい。と言われました。当時、全ての人の言語が一つだけでした。人々は東の方から移って来て、シナルの地に平地を見つけ、そこに住んだ。彼らは互いに言った。「さあ、れんがを作り、よく焼こう。」こうして彼らにとって、れんがが石の代わりとなり、アスファルトが漆喰の代わりとなりました。さあ、私たちは降って行って、そこで彼らの言語を混乱させ、互いの言語が理解できないようにしよう。」こうして主は、人々をそこから全地の面に散らされた。そこで彼らは、その町を築くのをやめた。それゆえ、この町の名はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の言語を混乱させたからである。主はそこから彼らを全地の面に散らされた。(創世記 11 章 1～9 節)神様の絶対的な権威の御言葉を無視して神様の栄光を奪うことは、高慢な場で座る行為です。神様の名をもうろくと言う人も高慢な者です。福ある人は福ある人は、悪しき者の謀に歩まず、福ある人は罪人の道で立ってはいけないし、福ある人は高慢になってはいけません。

**2 節に“主の教えを喜びとし／その教えを昼も夜も唱える人。”と記録されています。福ある人は積極的で能動的で振り舞う二つを名士しました。**

第一は 福ある人は主の律法を楽しめます。

主の律法とは聖書を示します。聖書は神様が人生たちに与えた御言葉が記録された本です。福ある人は神様の御言葉によって楽しめます。1) 神様の御言葉は万物がどのように、なぜ、そんざいするのかを知らせます。2) 神様の御言葉は神様がどなたなのか、人生のため何を行うか知らせます。3) 神様の御言葉は救いの恵みと真理を教えます。4) 神様の御言葉は人がどのように生きるべきか教えます。5) 神様の御言葉は死後世界と歴史の終末に関して教えます。6) 神様の御言葉は驚くべき能力があります。その御言葉を信じて従順するとその驚くべき能力を知りまた、体験することが出来ます。

神様の御言葉は創造能力があります。万物を保存する能力があります。生きて運動力があり、人の心の考えと意図を見分ける能力があります。新たに生まれ変わる能力があります。信仰を生み出す能力があります。神様の御言葉は知恵たるものになる能力があります。病気を治し、危機から助ける能力があります。豊かにする能力があります。平安を与える能力があります。サタンの試験を乗り越える能力があります。神様の御言葉はこのような多様な能力があります。皆さんは、神様の御言葉を楽しんで御言葉の能力を日々深く体験することを願います。

第二は、福ある人は主の律法を朝と夜に黙想しなければなりません。

読むことは、牛が草を食べることと同じで、黙想することは反芻して栄養分を消化させることと同じです。昼夜に黙想することは常に黙想するという意味です。聖書の区節を覚えましょう。覚えると、いつどこでも暗唱したり、黙想することが出来ます。

**3 節に“その人は流れのほとりに植えられた木のように。／時に適って実を結び、葉も枯れることがない。／その行いはすべて栄える。”と記録されています。福ある人は人らしく行動する聖徒達に約束された神様の恵みが二つ名士しました。**

一番目、流れのほとりに植えられた木のようになるとしました。流れるほとりに植えられた木のように神様から豊かな能力と恵みを供給されます。時に適って伝道の実、奉仕の実を結びます。葉も枯れることがないです。希望と喜びを供給されます。

二番目、その行いはすべて栄えると言われました。栄えるとは苦難が全くないのを意味するものではありません。どんなことに会っても最後には有益になることを意味します。不便と苦痛を経験することがあっても、神様の慰めの能力で勝つようにしていただき、患難と苦難が最後に福と栄光になるようにしていただきます。

**6 節に記録されています。“主は正しき者の道を知っておられる。／悪しき者の道は滅びる。”**

福ある人は他の名は“義人”と言います。イエスキリストの中で義とされた人です。“幸いな者／悪しき者の謀に歩まず／罪人の道に立たず／嘲る者の座に着かない人。主の教えを喜びとし／その教えを昼も夜も唱える人。”という話に合うように生きる義人の行為で神様から認定されるようになります。彼の人生は永遠な意味と価値を持つようになります。神様がその人生を認めるからです。

聖徒皆さんは全て福ある人と呼ばれ、福ある人らしく生きて、福ある人に約束された神様の恵みを享受するように願います。